



平成 18 年 9 月 15 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ピ ク セ ラ
代 表 社 名 代 表 取 締 役 社 長 藤 岡 浩
(コード番号 6731 東証第 1 部)
問 合 せ 先 取 締 役 経 営 企 画 室 長 御 前 仁 志
(TEL 06-6633-3500)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成 18 年 5 月 18 日の中間決算発表時に公表した平成 18 年 9 月期(平成 17 年 10 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 当期連結業績予想数値の修正(平成 17 年 10 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	10,236	378	452
今回修正予想(B)	8,890	500	500
増減額(B-A)	1,346	122	48
増減率(%)	13.1	-	-
(ご参考)			
前期実績(平成 17 年 9 月期)	8,006	110	155

2. 当期単体業績予想数値の修正(平成 17 年 10 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	10,201	151	79
今回修正予想(B)	8,860	20	4
増減額(B-A)	1,341	131	75
増減率(%)	13.1	86.8	94.9
(ご参考)			
前期実績(平成 17 年 9 月期)	8,006	71	26

3. 修正の理由

当期の単体及び連結の売上高につきましては、主力製品であるテレビキャプチャーボードの販売台数が計画値を下回る見通しとなり、その結果、前期比 10%程度の増収となるものの、中間決算発表時に公表した売上高予想を下回る見通しとなりました。

当期におけるテレビキャプチャーボードの販売台数計画は、今年 6 月のサッカーW杯と 9 月に発売される秋冬モデルパソコンに大きな需要を見込んでおりました。しかしながら、サッカーW杯商戦では薄型テレビや DVD レコーダーに消費がシフトしたこと、また、秋冬モデルについては、来年初めに予定されている米マイクロソフト社の基本ソフト（OS）「ウィンドウズ・ビスタ」の発売による買い控え機運が出始めたことから出荷台数が落ち込みました。

この結果、当期の販売台数は、従来製品であるアナログテレビキャプチャーボード 60 万台、地上デジタル放送対応のテレビキャプチャーボード 20 万台の計画に対して、それぞれ 50 万台弱、20 万台弱となり、デジタルテレビキャプチャーボードは概ね好調であったものの、アナログテレビキャプチャーボードの出荷が予想を下回る見通しとなりました。

利益面につきましては、単体では、売上高の計画未達による利益の減少により期首に公表した利益金額を下回る見通しとなりました。また、連結では、今年 1 月に連結子会社化した株式会社シンセシストと、株式会社 RfStream（現在は持分法適用関連会社）の開発費が増加したことにより損失が膨らむ見通しであります。

以上のことから、当期における売上高、経常利益及び当期純利益の業績予想を修正することといたしました。

なお、次期以降につきましては、パソコン市場において新 OS 発売による需要の拡大が見込まれるなか、付加価値の高いデジタルテレビキャプチャーボードの販売拡大とデジタル AV 家電分野での事業拡大、加えて株式会社 RfStream の主力製品であるシリコンチューナーの販売が本格化する見込みであります。

来期の見通しの詳細につきましては、決算発表の際にお知らせいたします。

以上

（注）上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、既知・未知のリスクや不確定な要素などの要因により、実際の業績は記載の見通しとは異なる可能性があります。